

編集後記

『人間科学研究』第4巻第1号をお届けします。平成19年4月の人間科学部の開設と人間科学会の発足から4年目、お陰様で完成年度を迎えることができました。

今号は、こども学科4件、スポーツ学科2件の研究成果が寄せられました。

高氏は、不登校やいじめでトラウマを負って苦しむ子どもたちに対し保健室や養護教諭はどのような役割を果たすべきかという学校教育の今日的課題と真摯に向き合っています。

谷中氏は、音楽教育におけるICT活用（音程音量の抽出や音響処理を行うソフトの開発と選択）が子どもたちの創造性をどのように育むかについて実践事例から模索しています。

直江氏は、イタリア人声楽家アドルフォ・サルコリの資料調査から、文明開化以降の日本音楽界がどのように西洋声楽や歌劇を受容したかについて明らかにしようと試みています。

村井氏は、タッチパネルとして子どもたちが画面上に書き込みもできる電子黒板の活用によって学習過程にどのような教育効果がもたらされるかを実践事例から想定しています。

井上氏は、国際知的障害者スポーツ連盟（INAS-FID）の室内陸上競技世界選手権大会に日本選手団長として参加された経験から、アダプテッド・スポーツという概念を示しました。

島田氏らの共同研究は、小学生野球選手における形状および質量の異なるバットを用いた素振り動作について生体力学・運動学の手法で分析し、適切なバッティング練習を実証しました。

以上、未来を担う子どもたちや障害を持たれた方々への優しい眼差しから始まる各分野での多彩な活動が実を結び、少しでも地域や世界への貢献に繋がれば、人間科学部としてこれに勝る喜びはありません。

どうぞ高覧ご批正くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

2010年9月吉日

編集委員長 馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は基本的に人間科学会に帰属します》